

手をむすんで

H27.1

長野市
環境ビジョン



山にみどり、川に清流、谷に風、空に星、自然と和して発展するまち、人のくらし、みんなの知恵と行動でつくる環境・未来・ながの

自然エネルギーは地域の資源



公開学習会開催

協働の取組み 鬼無里地域での実践から学ぶ

ながの環境パートナーシップ会議は、平成26年12月6日(土)長野市ふれあい福祉センターで公開学習会を開催、市民や本会議会員の皆さん30名近い参加がありました。最初に「自然エネルギーは地域の資源」と題し、鬼無里地区でのソーラー発電事業について、(二社)自然エネルギー信州パートナーズの山田和輝さんから、「ソーラー発電施設の設置に向けた草刈や降雪時の除雪などの維持管理を通じた協働の取り組みによりこの事業は実現可能となった」とお話がありました。



真規子さんから、鬼無里の活性化

里 理事 古畑
最後に、協働の取組などについて活発な意見交換が行われました。地域やNPO団体などの目指す方向は豊かな自然と地域づくりです。そのため協働による環境保全活動はますます必要となるでしょう。今後このような学習会を通じ私たちの活動がより充実したものであることを期待します。

に向けた活動事例「鬼無里の地域おこしと自然エネルギーの活用」の報告がありました。
「まめつてえ」は、鬼無里の方言で「元気な」という意味。鬼無里の豊かな自然を活かし、遊休農地を活用した鬼無里を元気にする取組「地域の食材を使ったランチ会」「都市との交流を図る田んぼくらぶ」「間伐による薪作り」「野生鳥獣被害対策」や雇用創出となる「鬼無里薪ステーション」などの紹介があり、今後は古民家を再生し人口増加を目指すという方針が示されました。
また、本会議太陽エネルギー利用促進プロジェクトの田中昭チームリーダーが「太陽エネルギー普及と今後について」と題して、チーム活動を紹介。着実に進んでいる地球温暖化の危機的な状況と自然エネルギーの必要性について強くアピールしました。

つなぐ・つながる

このコーナーでは、環境活動をしている団体、施設及び他団体との連携を紹介します。

長野市リサイクルプラザ

長野市リサイクルプラザ
所長 藤田芳信



廃材アート2014作品展示

長野市リサイクルプラザは、長野市清掃センター内のリサイクル啓発などを行う施設で、愛称は「リフレッシュプラザ」です。市民が自らのライフスタイルを見つめ直し、無駄な消費を抑えて廃棄物を減量し、不用品の再利用、再資源化することが、持続的な環境保全に必要です。このような観点から、リサイクルプラザではさまざまな事業

に取り組んでいます。指定管理者制度導入が導入された平成18年度から、NPO法人COOバンク推進機構が運営しています。
主な事業は、①リサイクルの情報(ごみ分別・リサイクルのバネル展示、リサイクル機器や再生品などの展示、図書コーナー)、②不用品の展示・提供(不用品になった家具類・日用品などの抽せん販売するリサイクル広場、おひとり3点まで持ち帰ることが出来るお持ち帰りコーナー)、③あつせん情報(不用品になった日用品を譲りたい人・欲しい人の橋渡し)、④講座・教室の情報(紙すき体験、牛乳パックの椅子作り、き織り体験、ダンボールコンポスト作り、クラフト作りなど)、⑤イベント情報(フリーマーケット、ながの環境フェア、リサイクル作品展、ダンボールの世界で遊ぼう、廃材アート展)などです。子どもたちとご家族、グループでの参加の機会を増やす工夫もしています。
2月8日(日)から22日(日)まで『廃材アート2015』が開催されます。身近な不用品によるアート作品で、ごみの減量やリサイクルに興味を深めていただくことがねらいです。市民からのアイデアあふれる作品展示します。2月14日(土)には廃材アートの体験できるワークショップ(参加費無料)を予定しています。ぜひお気軽にご参加ください。

パートナーシップ会議の活動紹介(6月～11月)

- 全体・理事会開催
- 平成26年度総会 6月15日
 - 信州環境フェア出展 8月24日 25日
 - 公開学習会 12月6日
 - 理事会 6回、リーダー合同会議 1回
 - 大集合スペシャルチーム4回
 - ★新プロジェクト12月理事会で承認「小生物の生育環境保全プロジェクト」
 - プロジェクトの活動紹介
 - (チームの活動回数と主な活動)
 - 市民の森づくり(30回)
 - 市民の森の整備
 - 生ごみ削減再利用(14回)
 - 若槻住民自治協議会とのコラボレジ袋使用削減(5回)
 - ノーレジ袋デー店頭キャンペーン
 - 毎月5日、マイバッグふえすた11月14日・15日
 - 水環境保全(7回)
 - 川中島今井せせらぎ川改修の検討、戸隠飯綱自然観察会10月18日、野尻湖水質浄化視察
 - 太陽エネルギー普及促進(5回)
 - 浅川出前講座、公開学習会事例発表
 - 子ども環境学習支援(10回)
 - 国際ユース環境会議9月5～6日
 - 光害対策(5回)
 - ライトダウンコンサートと星空観測7月4日
 - スキー場跡地の自然復元(7回)
 - 大岡聖山スキー場跡地の草原保護、ブナ等育苗
 - ながのカーボンオフセット(3回)
 - ホームページの更新

お知らせ ながの環境活動コンテスト

ながの環境団体大集合2015
日時：2月15日(日) 13時～16時半
場所：長野市生涯学習センター4階
参加無料
市内の企業・団体の環境保全活動の発表を市内の高校生などが審査皆さんのご参加お待ちしております。

《発行》
ながの環境パートナーシップ会議
市民、事業者、行政の協働(パートナーシップ)により環境保全に取り組んでいます。
《編集・事務局》
〒380-8512
長野市大字鶴賀緑町1613
長野市環境政策課内
TEL 026-224-5034
FAX 026-224-5108
E-mail:kankyo@city.nagano.lg.jp
URL http://nagano-ep.net/

キラピーるぽ 住民自治協議会の環境活動

最近、地域の環境活動が盛んになってきています。今回は市内の4つの住民自治協議会取材しました。(人口は26年10月1日現在)



鍋屋田小学校ホタル池の前で

かつて、鍋屋田小学校の校庭にあるホタル池には数多くのゲンジ

「鍋屋田の里ホタル再生事業」で

第三地区住民自治協議会 人口：6,472人

世代を超えて

「街のオアシス」をよみがえらせる

第三地区といえば、権堂、緑町、問御所といった中心市街地を抱える街なか地区です。それだけに、役員さんのお話はまず繁華街のごみ出しの問題から始まり、外国語圏の住民に理解してもらうために三ヶ国語での表示を工夫しているとのこと。この町で子供たちも一緒に取り組んでいるのが

ボタルが飛び交い、校門前を流れる北八幡川のホタルとともに、心和む大切な風景でした。その恵まれた環境が、光害、騒音、大気汚染といった市街化の影響とともに失われ、主(ぬし)不在の小学校の池は名前だけが残されています。そこで、区内を流れる南八幡川のホタル再生に取り組んでいたメンバー(街でホタルを楽しむ会)が中心となり、小学校に働きかけて、ホタル池の水路改修と、育成会と子供たちの共同で池の清掃活動をして生育環境を整え、6月に通水式を行い見事に蘇った池を披露。7月には、「街でホタルを楽しむ会」と共にホタル観察会が開かれ、ホタル飛び交う街の将来に思いを馳せました。また、校内の水槽でホタルの餌となるカワナナの生育も試みており、ホタル池育ちのホタルが見られる日はそう遠くはないようです。なおこの事業は長野市の26年度「地域やる気支援補助金」の対象となりました。

地域の貴重な宝を守りいつまでも住みやすい町にという住民の願いは、力を合わせてホタル池再生に取り組んだ子供たちに確かに引き継がれていくのではないのでしょうか。

川中島地区住民自治協議会 人口：27,697人

“環境宣言”10カ条”に基づいて 部会を超えた地域づくり

川中島地区住民自治協議会の設立は平成19年。市内32地区で三番目と早く、公募による100名余りの地区代表者により立ち上げられました。

特筆すべきことは自主的活動が盛んなことです。環境部は平成20年に、住民の環境への想いを「環境宣言」10カ条」としてまとめ、全戸配布し住民が目指す共通の約束を示しました。

現在もこの宣言に基づき (1)環境パトロールの実施、(2)花いっぱい運動、(3)段ボール箱による生ごみ処理、(4)レジ袋削減・マイバッグ持参、(5)太陽エネルギー利用の啓発など、いずれも継続して活動しています。

川中島駅や今井駅周辺では、長年自転車の盗難や地下道の落書きなどがあるため4年前から放置自転車の盗難対策に取り組み、平成24年に安全・防犯の講演会で、「安全・安心で潤いの街づくりは、豊かな環境づくりと共通している」ことを学びました。環境部と安全・防災部会の協働で駐輪場の周囲にきれいな花を育てる活動を展開。多くの人が楽しみを与え、その人々が「監視役」となり自転車盗難被



共同で駐車場の草花の手入れ

害減少につながりました。「潤いの街づくり」と「花いっぱい運動」は見事に実を結びつつあります。この成果は、長野南高校、更科農業高校、退職公務員、老人クラブ、本町愛好会、本町区民、今井原区民、川中島地区有志などの支援・協力によるところが大きいのです。

この他、健康福祉部会と一緒に健康づくりを兼ねる老人会などの協力により環境パトロールを行っています。

今後は、川中島中学校、川中島小学校、昭和小学校などに地域住民が積極的に関わり、サポートする「信州型コミュニケーションスクール」の活動を計画しています。

七二会地区住民自治協議会 人口：1,764人

住民と産官学が協働で取組む 「住んで良かった」といえる故郷づくり

七二会地区は、長野市西部に位置する典型的な中山間地。少子高齢化・過疎化・遊休荒廃地の増加・有害鳥獣対策など、地域全体で解決しなければならぬ課題が山積しています。

これらの課題解決のために積極的に地域住民が立ち上がり、未来ある子供たちが、地域に誇りを持ち、住民一人ひとりが「住んで良かった」といえる故郷づくりを目指します。様々な団体との連携・協働も必要となるでしょう。



ソルガム(高キビ)のおやき作り

生活基盤のインフラ整備などに関して、これからは、地域住民が創意工夫をこらし汗を流して、

自らの地域づくりに取り組むことが求められています。ふるさと創生のために早急に行動を開始しようとしています。

☆主な取り組み

・公募により募集した「活性化委員会プロジェクトチーム」は、地域内の各種団体と連携して地域内の諸課題の解決方策を協議。
・七二会創生有限責任事業組合を設立。太陽光発電事業の収益で自主財源を確保することを検討中。

・信州大学「地域戦略センター」は、産・官・学の連携により「中山間地域の未来学」というゼミを開講。「やまざとの地域資源をどう生かすか」をテーマに、受講生と地域住民の協働による15回の講座を開催。

・信州大学、長野市環境部の連携により、「耕作放棄地対策」「新たな農業」「経済循環創出」事業として、ソルガムの試験栽培を実施。実は、郷土食としての「おやき」への利用を考案し、信大ゼミの受講生と調理試食。
・七二会森林整備クラブは、支障木を地域エネルギーとして活用する活動を開始。特に、近年需要が高まっている「薪の製造」で、雇用創出を図り、有害鳥獣のすみかを減少させることを研究中。

朝陽地区住民自治協議会 人口：15,107人

住民の環境意識の向上と Eco活動の普及を

田園風景が残る住宅地が多い朝陽地区は市の北東部にあたります。朝陽地区の環境美化部会では、地球温暖化による異常気象への危機感を持ち、地域からそれを少しでも解消できるように住民の意識を高める活動を行っています。

そのために清掃センター見学資源回収への協力などを実施。さらに、くらしの中の具体的な取り組みとして、市温暖化防止活動推進センターやNPO法人みどりの市民の協力を得て「エコドライブの推進」「生ごみの減量」「緑のカーテン作り」の活動を進めています。

生ごみの減量は、長野市の生ごみ減量アドバイザー派遣制度の活用により住民意識の啓発を図りましたが、「主婦は忙しく、生ごみの堆肥化を実践するのは大変、パワースタイル」の多くの講座の参加は役員中心で一般の住民にまでなかなか浸透しない」といった課題も浮かび上がりました。

「緑のカーテン」は、中部電力名古屋支社の協力によりゴーヤや朝顔の種を、育成会、老人会、支所などに配布して省エネの実践活



エコドライブ講座

また、資源回収なども他地域の事例を参考にしながら、住民が楽しく参加できる取り組みにしています。